

2017 年度 生涯発達心理学 第 5 回授業のまとめ（解答）

ク ラ ス		学籍番号				
氏 名			講義日		講義回	第 5 回

第 5 講 乳児期の発達 個性の発現

乳児期の特徴と身体的発達

生後 1 年程度の時期を乳児期と呼ぶ。この時期の特徴は、生後から身長が 1.5 倍、体重が 3 倍になるなど（ ①身体 ）の急激な発達や、大脳皮質の急速な発達による運動、認識機能、学習能力の発達をあげることができる。

乳児期の認知的発達

視覚系の抹消・中枢機能が未発達のため、乳幼児の視力は低い。乳幼児の視力は生後 2 カ月で（ ②0.02 ）ほどしかなく、焦点は 25 cm～30 cm ぐらいの距離にしか合わせることができない。4～5 歳で大人と同様になると考えられている。

ファンツの新生児と乳児に対する（ ③選好注視法 ）を用いた実験から乳児も好んで物を見る傾向があることが示された。また、乳児は（ ④人の顔 ）や顔に似ている刺激を好んで見ることが知られている。そして、新生児が母親の顔を熱心にみるということも証明されている。

乳児期の認知的発達

ギブソンとウォークの（ ⑤視覚的断崖 ）の実験から、新生児や乳児にも生得的に奥行き知覚や立体視の能力が備わっていることが示されている。しかし、先天性白内障の例や初期経験の研究から、奥行き知覚や立体視の能力は生後間もないころの経験の影響を受けることも知られている。

対人関係の始まりと母子関係

愛着（アタッチメント）とは、「特定の人に対する愛情の絆」とそれまでの（ ⑥依存 ）という用語に代えて、ボウルビィによって定義された。この考え方によって母子関係の研究に大きな進展が見られるようになる。

エインズワースはストレンジ・シチュエーションによって愛着の質を「A 群：回避群」、「B 群：（ ⑦安定群 ）」、「C 群：両極（アンビバレント）群」の 3 つに分類した。C 群：両極（アンビバレント）群は、母親が退出すると極度に不安がり、再開後は強く接触を求めるが、なかなか機嫌が直らない。また一方で母親を（ ⑧拒否 ）する行動も見られる不安定でアンビバレントな愛着を示す。

発達段階(乳児期)においての用語で、発達初期の、養育者との関係の中で形成される認知的枠組、スキーマのことを（ ⑨内的ワーキングモデル ）と呼び、親との相互交流の経験から、自分の要求に親がよく応じてくれたかどうかをもとに形成される、依存対象の特徴や対人状況のパターンや世界との関わり方についての見方のことを指している。